2016年（平成28年）
2月29日
月曜日
日刊工業新聞

日本の未来企業

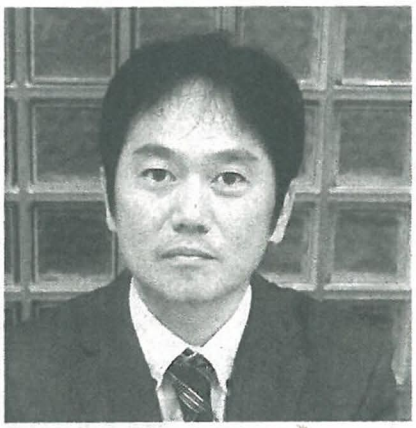
Vol.35

次の百年を創る

アール・アンド・エー・シー

利便性追求 他社製と連携強化

社長
高山 知泰 氏



入金・回収特化

大学卒業後、会計事務所で経理実務を担当した。事務職をこなす日々を過ごすうち、会計システム自体に興味を持つようになった。1年後には、会計システムの開発を手がける会社に転職。高山が従事したのは会計システムの導入。日々顧客の声を聞く中「お金の動きを入力して使う会計システムを導入するだけでなく、お金の動きそのものを合理化したい」と感じるようになった。

そこで2005年、会計システムのコンサルティング会社アール・アンド・エー・シーを起業した。

自動化成功

1年間はコンサルティングを主な業務としていたが、06年に転機が訪れる。入金を確認後、債権・債務の勘定科目の残高を消していく債権の消し込み作業の自動化に成功したのだ。開発は企業のニーズに応えてのことだったが「入金を受ける側は、する側の条件に合わせる。各債権ごとに条件が異なるためシステム化は難しかった」と振り返る。従来、消し込み作業は通帳で入金を確認し、会計システムに手作業で入力していた。「この部分を自動化することで、膨大な手間と時間を短縮、入力ミスの問題も解決した」。

「スマートワン」（イメージ画像）

完成したシステムは「ビクトリーワン」として07年に製品化。その後改良を重ね、13年に3世代目のG3を発売した。TOTOなど約120社が導入しており「3日かかっていた作業を30分にできた会社もある。15年12月には中小企業向けにG3のエントリーモデルを発売した。「多くの企業から問い合わせがくるが、コスト面から断念する中小企業は多い」。そこでデータ容量に制限を設けるなどして、低価格化した。

低価格モデル

導入先の多様化も進める。15年12月には中小企業向けにG3のエントリーモデルを発売した。「多くの企業から問い合わせがくるが、コスト面から断念する中小企業は多い」。そこでデータ容量に制限を設けるなどして、低価格化した。

今後は「他社システムとの連携強化を目指し、一部機能のオープン化やクラウド化を進める」。既に一部機能はクラウド化し、パッケージソフト「Smart-One（スマートワン）」として販売しているが、ビクトリーワンG3全体のクラウド化も検討する。

高山が製品に求めるのは「利便性」。使うことでどうなるか、使う人の立場に立ち、開発は続く。

（敬称略、南東京・門脇花梨）

企業プロフィル

▽代表＝高山知泰氏▽住所＝東京都千代田区東神田2の10の16▽資本金＝3780万円▽設立＝04年（平16）11月